

パーキンソン病の治療薬

「パーキンソン病」は脳の神経系統の一つである錐体外路系に異常が生じ主に手足の運動障害などが生じる病気です。この錐体外路系は筋肉の運動や緊張を調整する働きを持っています。発病の詳しい原因はわかりませんが、ドーパミンという物質（神経系の情報を伝える体内化学物質）が何らかの障害によって減少するために起こります。この減少が運動に関する情報の伝達が正常に伝わらなくなり運動障害が生じるわけです。

また同じような症状が薬の副作用として生じることもあり薬剤性の症状も含めてパーキンソン症候群と言われています。

（薬物療法）症状を改善したり、日常生活を少しでも問題なく送れるように薬物治療が行われます。

不足するドーパミンを補うために レボドパ製剤（L - dopa 製剤、商品名：メネシット等）やドーパミンを受ける

受容体に直接作用してドーパミンの分泌を促進する薬（ドーパミン受容体作動薬 商品名：ペルマックス等）

ドーパミンの分泌を促し、放出されたドーパミンの再取り込みを抑えて、合成を促進する薬（ドーパミン分泌促進剤 商品名：シンメトレル等）が利用されます。

またドーパミンとアセチルコリンのバランスを調整する目的で

抗コリン剤（商品名：アーテン等）が使用されます。

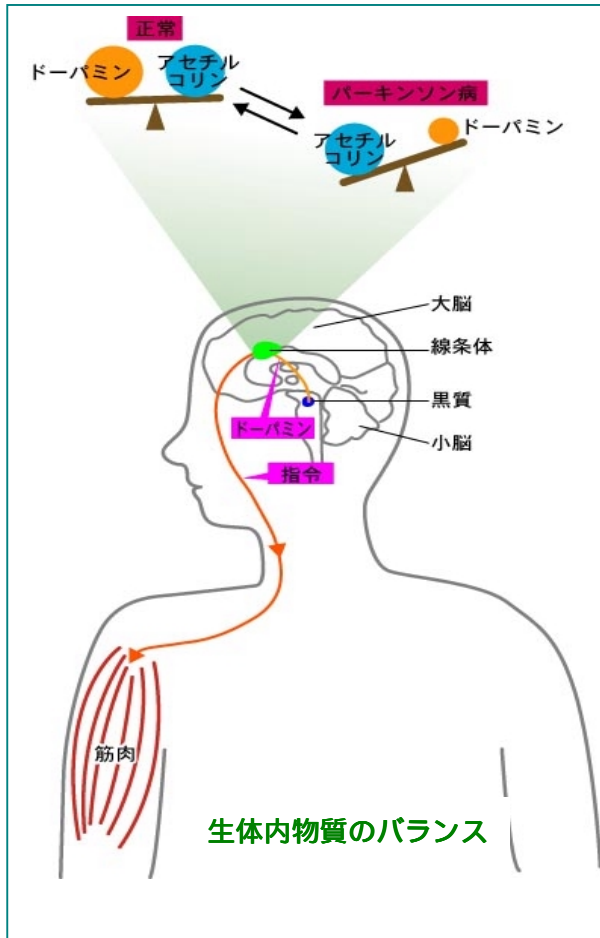
パーキンソン病ではノルエピネフリンという体内物質も減少することからこの物質を補う為に

ノルエピネフリン前駆物質（商品名：ドプス）

ドーパミンの分解を防いでドーパミンの量を維持する

モノアミン酸化酵素阻害剤等が利用されるようになりました。近年薬の副作用（食欲不振、便秘、起立性低血圧、幻覚・妄想などの消化器症状、循環器症状、精神症状）

の軽減を目的として複数の薬が投薬されるようになってきています。



パーキンソン病の治療に利用される薬

L - ドーパ製剤

（ドーパミンの原料で脳の中に入ってドーパミンになります）



（メネシット）



（マドパー）

ドーパミン受容体作動剤

（ドーパミンと同じような働きを持っています）



（パーロデル）



（ペルマックス）



（ドモン）

ドーパミン分泌促進剤

（ドーパミンの分泌を促進したり合成を促します）



（シンメトレル）

抗コリン剤

（異常に高まった神経をおさえます）



（アーテン錠）

ノルエピネフリン前駆物質

（体内でノルアドレナリンに変化して神経を伝える化学物質を補います）



（ドプスカプセル）

モノアミン酸化酵素阻害剤

（ドーパミンの分解を防いでドーパミン量を維持します）



（エフピー錠）